

古木が危ない

ひがしこうち・百年を超える
柑橘の木が重症です。

高知県東部(ひがしこうち)には、柑橘の歴史で最古といわれる「タチバナ」をはじめとして、「サツマキコク(小根占)」「ゆこう」「清岡橙」「椎名スミカン」など、希少な品種がたくさんあります。古くより、各家庭では「酢みかん」が植えられ、それぞれの家庭で親しまれ、利用されてきました。

知らなかったばかりに。

ところが近年、「まなり」と呼び親しまれた室戸の「タチバナ」は、獣害で本数が激減、希少な品種と知らずに切り倒された木や、樹木医さんの手当も虚しく延命しかできない手遅れに近い古木も。また、それら酢みかんは、ゆずの栽培が推奨されて以降、各家庭や地域での「おきやく」や神祭文化が消えつつあることと共に食文化も絶滅危機となっています。

知って欲しい活動の一環で
展覧会を開きます。

わたしたち「ひがしこうち香酸柑橘類研究会」は、ひがしこうちの希少な酢みかんを残したい、その豊かな食文化があったことを知って欲しいと、これまでの活動と、今後を考える展覧会を行います



樹木医さんによる、手当後の椎名スミカンの樹木

3.5～3.20 at 北川村モネの庭マルモットン
フローラルホール

ひがしこうちの酢みかん - 古木と食文化 -

〈ひがしこうち香酸柑橘類研究会調査研究成果報告〉

主催：ひがしこうち香酸柑橘類研究会

【問い合わせ先】HP: <https://ekochi-sumikan.opath.jp/> TEL モネの庭 0887-32-1233

協力：北川村「モネの庭」マルモットン 北川村観光協会 特定非営利活動法人地域文化計画

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 芸西村伝承館製糖組合

後援：北川村 / 北川村教育委員会、室戸市 / 室戸市教育委員会

○ 観覧には、モネの庭入園料がかかります。

※この事業は、安芸広域市町村圏事務組合「令和5年度地域づくり活動支援事業費補助金」の助成金により「地域資源「ひがしこうちの香酸柑橘類」の果樹及び食文化の観光活用に向けた現状調査・記録・研究・発信事業」の一環として開催しております。



橘を用いたお香

「白梅」を調合します

ワークシヨップ

たきもの

薫物「白梅」

日本の古来の芳香剤には「薫物」たきものがあります。これは沈香や丁子などの香料を調合したもので、形は丸葉状や散葉状などさまざま。元は古代王朝で行われていたものが奈良時代までに日本に伝わり、日本独自のレシピが生まれ、平安時代以降の上層社会に普及したと考えられています。時代ごとに、様々な名前の薫物が数多く考案され、江戸時代の文献によると、当時珍重された薫物の一つに「白梅」はくばいという名前のものには、当時の梅干し、或いは橘の実が用いられたと伝わります。ワークシヨップでは、このレシピを参考に、北川村長山産の橘を用いて薫物「白梅」を調合します。

3.16 at 北川村モネの庭マルモッタン
フローラルホール

〈スケジュール〉 13:00～ 90分程度

丸葉状のお香を作ります（わずかですが、お持ち帰りになれます）

定員：先着 20名 要予約

会費：1,500円（別途、モネの庭入園料がかかります。）

持ち物：エプロン、筆記用具

〈講師〉 田中圭子氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター特命研究員）

〈申込方法〉 下記のQRコード、またはURLよりお申し込みください。



【問い合わせ先】 HP: <https://forms.gle/kwmqSBrZ9d2P23PJA>

TEL モネの庭 0887-32-1233 安芸郡北川村野友甲 1100 番地